

水泳部 人はなぜ泳ぐのか？

『はい、泳げません』
高橋秀実/著 新潮社 ZJ 785.2

“泳げる人たちは「泳げない」ということがまるでわかっていない”
子どもの頃から水が怖いという高橋さん、なんとスイミングスクールに通い始めた。「泳ごうとしない」「伸びる」「考えない」…熱血コーチの指導により、段々と「泳ぐ」という事を理解していく。泳げないからこそ見えてくる「泳ぐ」ということ。泳げる水泳部の人にこそおすすめです。

バスケット部 あきらめるなんて許さない

『リバウンド』 E.ウォルターズ/作
小梨直/訳 福音館書店 Y933

ショーンはバスケットが大好きだった。決して不真面目なわけではないのに、いつも面倒ばかり起こしてしまう。そして今度は、車いすに乗った転校生のデービッドと取っ組み合いのけんかをしてしまった。最悪な出会い方をした2人だったが…
バスケットを通して友情を深め、成長していく少年たちの物語。

囲碁・将棋部 羽生善治には、なれなかった

『将棋の子』
大崎善生/著 講談社 Z1 796

プロ棋士誕生の陰にはいつも、年齢制限により棋士の道をあきらめなければならなかった若者たちがいる。将棋に青春のすべてをかけ、そして夢破れた若者は、その後の人生をどうやって生きていったのか。
棋士を目指す若者たちを傍でずっと見守り続けた著者が、その後の足跡を追ったドキュメンタリー。

書道部 一筆入魂

『知識ゼロからの書道あそび文字入門』
武田双雲/著 幻冬舎 728

字がきれいな人ってステキですね。あなたの字はどうですか？魅力的な字を書くために、書くこと自体を好きになることが重要です。「読めればいいんじゃない。」そう思うあなたにおすすめの1冊。テレビなどで様々な活躍を見せる武田双雲が、遊び心満載な「書」を紹介しています。『基本に忠実に』『しっかりと』書くことも大切ですが、まずは『楽しむこと』が重要ではないかな。

体操部 未来のオリンピック選手へ

『技術と表現を磨く！魅せる新体操上達のポイント50』
石崎朔子/監修 メイツ出版 ZJ781.4

「クラブ」「フープ」「リボン」「ロープ」「ボール」、そして全身を駆使するスポーツ、新体操。その新体操の点数のつけ方から、基本的な技術、効果的なトレーニングを、わかりやすくまとめた1冊です。新体操の選手は、いつどんなときも姿勢がいいですね。それは、演技中は「ただ立っているだけ」だと減点されてしまうからです。その美しい姿勢の秘密も書かれていますよ。

野球部 お嬢様たちの熱い戦い

『大正野球娘。』
神楽坂淳／著 小池定路／カバー&イラスト
徳間書店 913.6

パーティーの席での許嫁の態度に腹を立てた女学生の「お嬢」は、相手の得意な野球で打ち負かすことを決意する。その決意は、クラスメート、学校全体を巻き込んでいき、野球部の男子チームと試合をすることになる。野球を全く知らない大正時代の女学生達は猛特訓をして、知力、財力、団結力、あらゆる力を尽くし、勝利を目指していく。

軽音部 東北・港町の同世代パンクロッカー

『ティーンズ・エッジ・ロックンロール』熊谷達也／著
実業之日本社 Y913

パツとしないバンドを解散して、仕方なく学校の軽音部に入った高校生の匠は、容姿端麗な部長の遥にひとめぼれする。しかし、遥に軽音部に入ってやりたいことを聞かれ、答えたところ「つまらない、ほんとうにつまらない」と舌打ちをされてしまう。「自分のやりたいことはなにか…」「自分の住むまちに足りないものはなにか…」匠は自問自答しながら自分の音楽を模索していく。読み終わったら、あなたも自分にとって、大事なことを自問自答しているかもしれません。

天文部 戦場のスパイは夜空を見上げる

『夜の光』
坂木司／著 新潮社（新潮社文庫）
Y913

「ブッチ」、「ギィ」、「ゲージ」、「ジョー」…お互いをコードネームで呼び合う、高校の天文部の4人。

週に一回部室に集まり、季節ごとに夜空を望遠鏡で観察する、ゆるい活動の部活。しかし、部員達は学校や家庭などでは、自分を隠し、スパイのように、それぞれの戦場の最前線を生き抜いていた。日常を戦いながら生きるすべての人の、背中を押してくれる物語。

文芸部 敵か味方か？

『メ切本』
左右社編集部／編 左右社 914.68

「メ切が迫っているのに、文章が書けない…」、そんな思いをしたことはありませんか？文章が上手い文芸部のみなさんはそんなことないのかもしれませんが。しかし、この本では、夏目漱石、谷崎潤一郎などの大文豪もメ切に悩まされている様子が紹介されています。小説家・漫画家等のメ切に関わるエピソードを集めてまとめた1冊。先人達がどのようにメ切を乗り切っていたのかを学んでみよう。

写真部 写真でしか見えない景色

『世界でいちばん長い写真』
誉田哲也／著 光文社（光文社文庫）
Y913

イケてる幼馴染が引っ越し、残された存在感のうすい写真部の「僕」。課題の写真も部長から「ダメだし」されるし、教室にいてもつまらないし…。そんなときにお祖父ちゃんのリサイクルショップで出会った、長い写真が撮れる不思議なカメラ。この出会いで、落ち込んでいた「僕」の毎日が少しずつ変わっていく。『武士道シックスティーン』などで有名な誉田哲也が写真部の青春を切り取ります。

高校生に戻れたら、泳げないけど水泳部に入りたい。泳げたら、人生変わるらしい。(担当0)

部活一筋な人、部活は友達と楽しみたい人、部活は最低限でいいという人…色んな主人公がいるので、自分と波長が合う物語を探してください。(担当1)

いろいろな部活がありますね。中高生の頃に「なにを」がんばるか、より、「どう」がんばるかが大事。「どう」がきっと将来につながりますよ。(担当 Y)